

Agent for Open Files

Arcserve® バックアップ

r17.5

arcserve®

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i) 本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii) ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2018 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品 リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品 は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication および High Availability

Arcserve サポートへの問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

[テクニカル サポートへの問い合わせ](#)

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

Arcserve Backup マニュアル

Arcserve Backupドキュメントには、すべてのメジャー リリースおよびサービス パックについての特定のガイドとリリースノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以下のリンクをクリックします。

- [Arcserve Backup r17.5 SP1 リリースノート](#)
- [Arcserve Backup r17.5 マニュアル選択メニュー](#)

コンテンツ

第1章: エージェントの紹介	9
ライセンス登録	10
ファイルアクセス制御	11
データの整合性の問題	12
ファイルレベル同期	13
グループの同期化	14
エージェントのコンポーネント	15
コンソール	16
Windows エンジン	17
第2章: エージェントのインストール	19
インストールの前提条件	20
エージェントのインストール	21
コンソールおよび Windows エンジンのインストール	22
エージェントのアンインストール	23
第3章: エージェントの使用法	25
エージェントを使うための準備	26
コンソール	28
コンソールのダイアログ	29
エージェントの環境設定	31
[一般]タブ	32
[ファイル/グループ]タブ	37
[クライアント]タブ	46
詳細な環境設定	48
リモート バックアップ プログラムの場合のログオン名の設定	49
再試行のメカニズム	50
ファイル書き込みのキャッシュ	51
名前変更または削除したファイル	52
サーバのスキャン	53
プレビュー データ ボリュームの変更	54
エージェントのステータス	55
Windows サーバでのエージェントのステータスの表示	56
ログファイルビューアへのアクセス	62
ログファイルビューア	63

第4章: 推奨事項	65
エージェントとVSS	66
Agent for Open Files を使用して開かれているファイル进行处理する場合	67
大容量のボリュームにある少量のデータのバックアップ	68
ライタでサポートされていないファイルのバックアップ	69
VSSを使用して、開かれているファイル进行处理する場合	70
第5章: トラブルシューティング	71
一般的な問題	72
エージェントの圧縮ドライブへのインストール	73
コンソールからエージェントにアクセスできない	74
コンソールの使用中にサーバのエージェントにアクセスできない	75
ネットワークのスキャンに時間がかかりすぎる	76
ファイル名を表示するための権限がない	77
Arcserve Backup とリモート システムの接続が切断される	78
バックアップ ジョブ中に多数のファイルを開いているとWindows コンピュータが応答を停止する	79
バックアップがしばらく停止しているように見える	80
バックアップ終了後にファイルグループが開かれたままになる	81
エージェントで Macintosh ネームスペースのファイル名が認識されない	82
バックアッププログラムに属するファイルを同期化できない	83
Agent for Open Files ステータスダイアログボックスの表示が崩れる	84
ワークステーションをバックアップ クライアントとして使用してファイルをコピーすると、グループが閉じない場合がある	85
エージェントがグループを同期化するときに、書き込み非アクティビティ期間が完了するまで待機しない	86
仮想マシン上でオープン ファイルをバックアップするときにバックアップ ジョブがライセンスエラーで失敗する	87
Agent for Open Files のメニュー項目を表示できない	88
バックアップ マネージャからエージェントにログインできない	89
第6章: 用語集	91
書き込み非アクティビティ期間	92
プレビュー データ	93
第7章: Index	95

第1章: エージェントの紹介

Arcserve Backupは、アプリケーション、データベース、分散サーバ、およびファイルシステム向けの包括的かつ分散的なストレージソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーククライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

- ファイルが開かれていたり、アプリケーションで継続的に更新されている場合でも、安全に連続してすべてのファイルのバックアップを実行できます。
- バックアップ中でも重要なファイルでの更新作業を続行できます。
- 必要なときにバックアップを実行できます。

本書では、OFA (Agent for Open files) の設定、実行、およびトラブルシューティングについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ライセンス登録	10
ファイルアクセス制御	11
データの整合性の問題	12
エージェントのコンポーネント	15

ライセンス登録

2 つのライセンス方法で Open Files をバックアップおよびリストアすることができます。

- クライアント コンピュータに Arcserve Backup Agent for Open Files をインストールします。

この方法では、Agent for Open Files と Microsoft Volume Shadow Copy Service を使用して、Open Files を保護できます。この方法を使用した場合、Agent for Open Files のライセンスにより、30 日間の試用期間が提供されます。

- Arcserve Backup サーバに Arcserve Backup Agent for Open Files のライセンスを適用します(クライアント コンピュータにエージェントをインストールしないようにしてください)。

この方法では、Agent for Open Files の代わりに Microsoft Volume Shadow Copy Service を使用して、Open Files を保護することができます。この方法を使用した場合、30 日間の試用期間は提供されません。

古いバージョンのエージェントを使用している場合は、Arcserve Backup により、エージェントがインストールされているコンピュータ上のライセンスの確認が行われます。ライセンス登録の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

注: Arcserve Backup Agent for Open Files のライセンスが、バックアップ ノードで使用可能でない場合、対応する VSS ライタはバックアップ マネージャの [ソース] タブに表示されません。

ファイルアクセス制御

あるアプリケーションでファイルを開いていると、ほかのアプリケーションからそのファイルにアクセスすることはできません。ファイルは開いている間はそのファイルを開いたアプリケーションの排他的な管理下にあるため、ほかのアプリケーションは、ファイルの読み取りが必要なバックアッププログラムであっても、そのファイルにアクセスできません。

Agent for Open files は、このアクセスコントロールの問題を解決します。このエージェントは、バックアッププログラム(以下、「バックアップクライアント」と呼びます)からのファイルオープンリクエストを認識し、通常ではオペレーティングシステムのファイルアクセス制御と競合するような場合でも、このリクエストの実行を許可します。このとき、バックアップクライアントからのファイルオープンリクエストのみが許可され、ほかのすべてのアプリケーションは通常のファイルアクセス制御に従います。

データの整合性の問題

データの整合性を保証するには、ある時点でファイルのバックアップコピーが元のファイルと完全に一致する必要があります。ただし、ファイルのコピーは瞬時に完了できる処理ではありません。ファイルサイズが非常に小さい場合を除いて、バックアップクライアントはファイルからの読み取りとバックアップメディアへの書き込みを数回実行することで、完全なコピーを作成します。バックアップクライアントで、ファイルのコピー中にほかのアプリケーションによってそのファイルが変更されていないことを確認できない場合、コピーされたデータの整合性に問題が発生することがあります。

例：8回連続の読み取り/書き込み処理をコピーする

この例は、データの整合性の問題を示しています。ファイルは、8回連続の読み取り/書き込み処理によってコピーされます。

1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---

バックアップクライアントは各ブロックを順番にコピーします。バックアップが半分ほど終了したところ、あるアプリケーションプログラムがブロック2とブロック6に小さな変更を加えたとします。この場合、バックアップではブロック6への変更には対応できますが、ブロック2はすでにコピーが実行されているため対応できません。したがって、バックアップコピーには部分的なトランザクションが含まれてしまうため、そのファイルを作成したアプリケーションによって破損ファイルと認識され、バックアップは役に立たないものになってしまう恐れがあります。

これは、データベースアプリケーションでよく発生する問題です。データベースの場合、複数のユーザが特定のファイルへのアクセスを同時にリクエストするだけでなく、単一のトランザクションであっても、ファイル(またはファイルグループ)内のさまざまな箇所に多数の小さな変更を加える可能性が高いからです。

ファイルレベル同期

Agent for Open files は、データの整合性の問題を解決するために、バックアップクライアントがファイルを開こうとしても、そのファイルがバックアップの実行に適した状態になるまでバックアップクライアントにファイルへのアクセスを許可しません。このとき、OFA では以下の処理が実行されます。

1. ファイルへの書き込みがまったく行われていない期間が検出された後、ファイルへのアクセスが許可されます。この期間は「書き込み非アクティビティ期間」と呼ばれ、通常5秒に設定されています。
2. 書き込み非アクティビティ期間が検出されると、ファイルは安定していると判断され、バックアップ処理の継続が許可されます。ファイルはこのようにして常に「同期化」されます。
3. ファイルが同期化されると、アプリケーションからそのファイルへの書き込みが可能になります。このときOFAは、バックアップクライアントが受け取るファイルデータが、そのファイルが同期化されたときと同じものであるように保護します。これを実現するため、同期化されたファイルにアプリケーションが書き込みを行おうしたときに、OFA は変更される直前のデータのコピーを作成してから対象ファイルの書き込みを許可します。この非公開コピーは「プレビューデータ」と呼ばれ、バックアップの実行時にバックアップクライアントに送信されます。これにより、送信されるファイルは、同期化したときのファイルと同じ内容になります。したがって、バックアップ中であっても、同期化されたファイルに引き続き書き込める上、ファイルの整合性に問題が発生することはありません。
4. また、バックアップ中のファイルがバックアップ開始後にアプリケーションによって開かれた場合も、プレビューデータの蓄積が開始されます。この場合、アプリケーションがファイルを開いた時点で同期化が行われます。

グループの同期化

複数のファイルをグループとして同期化するように設定します。グループでの同期化は、データベースでの作業時など、単一のトランザクションが複数のファイルに影響を与える場合に有用です。トランザクション(データベースの整合性を維持するための一連の処理)の整合性を維持するため、以下の処理が実行されます。

1. OFA は、グループ内のすべてのファイルに [書き込み非アクティビティ期間] を同時に適用します。OFAは、この期間中にグループ内にあるすべてのファイルへの書き込みが行われなかった場合にのみグループを同期化し、バックアップクライアントに各ファイルのコピー開始を許可します。
2. すべてのファイルがバックアップされると、グループは解放され、プレビューデータは破棄されます。

エージェントのコンポーネント

Agent for Open files は、以下のコンポーネントで構成されています。

コンソール

複数のサーバでエージェントをインストール、設定、およびモニタできます。

Windows エンジン

サービスおよびデバイスドライバの実行可能ファイル、クライアント定義ファイル、および Windows 用環境設定ファイルで構成されています。このコンポーネントには有効な Arcserve ライセンスが必要で、Windows コンピュータにのみインストールされます。

コンソール

BAOF (Agent for Open files) コンソールは、エージェントのユーザ インターフェースです。コンソールを使用すると、Windows エンジンがインストールされているサーバのバックアップの設定、および状態のモニタができます。また、コンソールが実行されているコンピュータからこれらすべてのサーバに対して上記タスクを実行することができます。

Backup Agent for Open files コンソールにより、開いているファイルをバックアップするために Windows エンジンがインストールされているサーバで Microsoft Volume Shadow Copy Service または Backup Agent for Open Files を選択することもできます。

Windows エンジン

Windowsエンジンは、Windowsを実行しているコンピュータのオペレーティングシステムが持つファイルアクセスコントロールと競合することなく、開いているファイルを Arcserve Backup でバックアップできるようにするソフトウェアです。Windowsエンジンにはユーザインターフェースがないため、Windowsエンジンのみがインストールされているコンピュータからサーバを管理することはできません。サーバを管理するには、コンソールを使用する必要があります。

第2章: エージェントのインストール

この章では、Windows コンピュータに Agent for Open files をインストールして設定する方法について説明します。指定されたオペレーティングシステムの特性と要件(管理者責任を含む)について理解している必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

インストールの前提条件	20
エージェントのインストール	21
エージェントのアンインストール	23

インストールの前提条件

Agent for Open files をインストールする前に、以下の前提条件を確認します。

- システムがオプションのインストールに必要なソフトウェア要件を満たしていること。

これらの要件の詳細については、[互換性マトリクス](#)を参照してください。

- エージェントをインストールするコンピュータ上で、ソフトウェアをインストールするために必要となる管理者権限(または管理者に相当する権限)を有していること。
- デフォルトのインストールパスを使用しない場合は、すぐ参照できるように、使用するインストールパスをメモしておきます。

エージェントのインストール

Agent for Open files は、Arcserve Backup のシステム コンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。

この手順の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

バックアップするファイルが格納されている各 Windows コンピュータ上には、Windows エンジンを実装する必要があります。ファイルのバックアップおよびリストアを管理するネットワーク上のサーバまたはワークステーションには、Agent for Open files コンソールを実装します。

インストールが完了したら、コンピュータを再起動します。

注： Arcserve Backup Microsoft Volume Shadow Copy Service は、Agent for Open Files をインストールする際に自動的にインストールされます。

コンソールおよび Windows エンジンのインストール

コンソールと Windows エンジンを実装するには、Arcserve Backup のシステムコンポーネント、エージェント、オプションの標準的なインストール手順に従います。

この手順の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

エージェントのアンインストール

以下の手順を使用して、エージェントをアンインストールします。

Agent for Open files をアンインストールする方法

1. Windows の [コントロールパネル]を開きます。
2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
[プログラムの追加と削除]ダイアログボックスが開きます。
3. 選択 Arcserve Backup.
[Arcserve Backup によるアプリケーションの削除]ウィンドウが開きます。
4. Arcserve Backup Agent for Open Files を選択し、[次へ]をクリックします。
場合によっては、警告メッセージが表示されます。
5. [次へ]をクリックします。
6. [指定したコンポーネントをご使用のコンピュータから削除してもよい場合、このチェックボックスをオンにしてください]チェックボックスを選択し、[削除]をクリックします。

エージェントがアンインストールされ、サーバで使用可能な Arcserve Backup コンポーネントの最新のリストが表示されます。

第3章: エージェントの使用法

以下のセクションでは、コンソール、エージェントの設定手順、エージェントステータスの表示、および詳細な環境設定について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

エージェントを使うための準備	26
コンソール	28
エージェントの環境設定	31
詳細な環境設定	48
エージェントのステータス	55
ログファイルビューアへのアクセス	62

エージェントを使うための準備

サーバに Windows エンジンを実インストールすると、Arcserve Backup を使用して開いているファイルをバックアップできるようになります。通常、エージェントは詳細設定を行わなくても十分有効に使用できますが、問題が発生するのを避けるために以下の基本的な考慮事項を確認してください。

- バックアップの対象となるファイルが、Windows エンジンが稼働しているサーバに格納されていることを確認します。常にではありませんが、通常の場合、これは Arcserve Backup が実行されているサーバになります。エージェントを複数のサーバ上で実行する場合は、サーバごとに Windows エンジンを購入してインストールする必要があります。
- Arcserve Backup が別のサーバで稼働していて、ネットワーク共有を使用して Windows エンジンが稼働するリモート コンピュータ上でバックアップを実行する場合は、Windows エンジンが稼働しているリモート コンピュータの Agent for Open files 設定で、リモート サーバクライアントが有効になっていることを確認します。
- バックアッププログラムが別のサーバで実行され、Windows エンジンが稼働しているリモート コンピュータのバックアップを実行するときクライアント エージェントを使用する場合は、対象サーバの Agent for Open files 設定でクライアント エージェントが有効になっていることを確認する必要があります。
- ファイルグループを設定します。データベース マネージャや電子メールシステムのように、互いに関連した複数のファイルを1つの単位として管理するようなアプリケーションの場合は、複数のファイルグループの定義が必要になる場合があります。
- VSS 設定を設定します。Windows Vista およびそれ以降のオペレーティングシステムでは、グローバルオプション **[VSS を使用する]** が有効になっているかどうかに関わらず、すべてのバックアップは VSS のみを使用して開いているファイルをバックアップします。デフォルトでは、Agent for Open Files は、常に VSS を使用してファイルをバックアップするようにエージェント マシンのレジストリキーを更新します。
- 設定にはコンソールを使用します。自分のサーバでエージェントを操作する場合、コンソールを使用する必要はありませんが、設定 やステータスをモニタリングするには必要です。

詳細情報:

[\[クライアント\] タブ](#)

[グループの同期化](#)

[エージェントと VSS](#)

[エージェントの環境設定](#)

[詳細な環境設定](#)

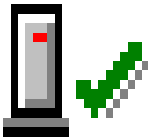
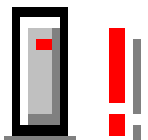
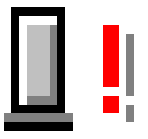
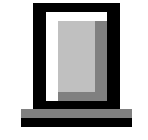
コンソール

コンソールを起動すると、まずメイン ウィンドウが表示されます。このダイアログ ボックスでは、選択したコンピュータの Arcserve Backup の制御とモニタリングを行うことができます。

[ファイル サーバ] リストには、ネットワーク上で検出されたアクティブな Windows サーバが表示されます。Windows ネットワークは、展開可能な個別の階層として表示されます。

コンソールの表示に特定のコンピュータを追加するには、[検索] ボタンをクリックしてコンピュータ名を入力します。ネットワーク全体を検索するには、[スキャン] ボタンをクリックします。

以下のアイコンは、各サーバ上でのエージェントの状態を示します。

アイコン	エージェントのステータス
	エージェントはこのサーバで実行されており、管理者、バックアップオペレータ、サーバオペレータ、またはスーパーバイザの権限でログオンしている場合は設定が可能です。エージェント ステータスを表示するには、エントリをダブルクリックします。
	エージェントはこのサーバで実行されていますが、管理者、バックアップオペレータ、サーバオペレータ、スーパーバイザのいずれかとしてログオンしていないので、サーバのステータスのみを表示できません。サーバにログオンするには、[ログオン] をクリックします。エージェント ステータスを表示するには、エントリをダブルクリックします。
	このサーバにログオンしていないので、エージェントが実行されているかどうかコンソールで判断できません。
	エージェントはこのサーバで実行されていません。エージェントはサーバ上にインストールされているが、ユーザが一時的にエージェントを中断またはアンロードしている可能性があります。

コンソールのダイアログ

コンソールの各ボタンは、特定のサーバに対して有効です。[状態]、[ログ]、[設定]、[ログオン]、または[インストール]の各ボタンを使用する前に、このリストの中からサーバを選択する必要があります。

ファイルサーバ

ネットワーク上で検出されたアクティブな Windows サーバが表示されます。Windows ネットワークの階層を展開したり、折り畳むことができます。

スキャン(または F5)

ネットワーク上でアクティブなサーバが検出され、[ファイルサーバ]リストが更新されます。

コンソールは、ネットワーク階層の展開されているブランチのみをスキャンし、閉じたブランチはスキャンしません。ブランチを展開すると、コンソールはそのブランチをスキャンして新しく追加されたサーバを更新します。階層の完全スキャンを実行する場合は、対象となる階層を展開して [スキャン] ボタンをクリックします。

検索

サーバを検索します。[サーバ検索]ダイアログで、検索するネットワークを選択し、サーバ名を指定します。サーバ名にはワイルドカード文字(「*」および「?」)を含めることができます。複数のサーバが検索されることがあります。アクセス権がない場合、エージェントはサーバにログオンするように促します。

- Windows コンピュータの場合、Windows エクスプローラを使用してログオンする必要があります。

注: ワイルドカード文字を使用する場合、ボリュームが格納されているファイルシステムでサポートされている文字のみを使用できます。ワイルドカード文字の動作は、ファイルシステムにより決定されます。

ログオン

選択したコンピュータにログオンできます。管理者、バックアップオペレータ、サーバオペレータ、スーパーバイザ、またはコンソールオペレータの権限でログオンすると、サーバを設定できます。

注: すでに管理者またはスーパーバイザの権限でサーバにログオンしている場合は、このボタンは無効になっています。

インストール

このオプションは、Windowsサーバでは使用できません。

オープンファイルのバックアップに Microsoft VSS を使用する

オープンファイルは、選択した Windows コンピュータで Microsoft VSS ベースの技術を使用してバックアップされます。このオプションを使用した場合、Agent for Open Files のステータス、ログ ファイル、およびビューを参照すること、または Backup Agent for Open Files の設定を編集することのいずれかが行えません。

オープンファイルのバックアップに BAOF を使用する

オープンファイルは Agent for Open Files を使用して、選択した Windows コンピュータにバックアップされます。このオプションを選択した場合は、**[状態]**、**[ログ]**および **[設定]**ボタンが有効になります。

ステータス

[Agent for Open files ステータス]ダイアログ ボックスを開いて、選択したコンピュータで現在エージェントが処理中のファイルおよびグループを表示するには、このボタンをクリックします。エージェントがサーバ上で稼働していて、オープンファイルをバックアップするために **[Agent for Open Files]**オプションが選択されている場合は、サーバをダブルクリックして直接 **[Agent for Open files ステータス]**ダイアログ ボックスを開きます。

ログ

[ログ ファイルビューア]ダイアログ ボックスを表示して、選択したコンピュータのログ ファイルを表示します。

設定

エージェント設定 ウィンドウの **[一般]**タブを表示し、選択したコンピュータのエージェントのグローバル設定を行います。

詳細情報:

[サーバのスキャン](#)

[\[Agent for Open files ステータス\]ダイアログ ボックス](#)

[ログ ファイルビューアへのアクセス](#)

[エージェントの環境設定](#)

エージェントの環境設定

「Agent for Open files の環境設定」ダイアログ ボックスを使用して、選択されたコンピュータでグローバル設定を設定します。

「Agent for Open files の環境設定」ダイアログ ボックスにアクセスする方法

1. コンソールの 「設定」 をクリックします。

注： 「設定」 ボタンは、Agent for Open files を使用してオープン ファイルをバックアップするようサーバを設定した場合にのみ有効になります。

「Agent for Open files の環境設定」ダイアログ ボックスが表示されます。

Backup Agent for Open files コンソールの詳細については、「コンソール」を参照してください。

2. 選択したコンピュータのグローバル設定を設定します。

注： この手順は、Arcserve Backup マネージャと同じコンピュータに Agent for Open files コンソールがインストールされている場合にのみ有効です。

3. 「ソース」タブで、左 ペインのブラウザからコンピュータを選択します。
4. 「詳細」ペインで、「Open File Agent の設定」をクリックします。

「Agent for Open files の環境設定」ダイアログ ボックスが表示されます。

以下のセクションでは、「一般」、「ファイル/グループ」、「クライアント」タブで設定するオプションについて説明します。

【一般】タブ

「Agent for Open files の設定」ダイアログボックスの【一般】タブでは、ログファイル、タイミング、プレビューデータ ボリュームの空き領域のデフォルト設定を変更できます。

ログファイルの設定

このエージェントは、サーバ上の処理記録をログファイルに保存します。ログファイルはリアルタイムで更新されます。このログファイルには、特定のファイルやエージェントの一般的な動作機能に関する情報が格納されます。

ログファイルのディレクトリ、最大サイズ、および最大数のデフォルト設定を変更するには、[ログファイル]グループを使用します。

注：同じ Windows サーバ上に Arcserve Backup Agent for Open Files と Arcserve Backup がインストールされている場合、Arcserve Backup アクティビティログにリアルタイムエージェント イベントが書き込まれます。

[一般]タブの [ログファイル]セクションでは、以下のオプションが指定できます。

ディレクトリ

エージェントがログファイルを格納するディレクトリを定義します。ボリューム名またはドライブ名を含めたフルパスで指定してください。

デフォルト

Windows:

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Open files\LOGS

注：ログのデフォルトパスを変更する場合、(Arcserve サーバ管理オプションまたは Windows コントロールパネルのいずれかを使用して) Arcserve Universal Agent サービスを再起動するか、または Arcserve Backup マネージャのメイン ウィンドウを閉じた後、再度開く必要があります。この操作を実行した場合のみ、セントラルエージェント管理によって、変更したログのパスから Open File Agent のログファイルが取得されます。

最大サイズ

ログファイルの最大サイズ(KB)を指定します。このサイズに達すると、エージェントは新しいファイルを使用します。

最大数

エージェントが保持できるログファイルの最大数を指定します。ログファイルの個数がこの値に達すると、最も古いログファイルが自動的に削除され、新しいファイルが作成されます。

デフォルト タイミングの設定

書き込み非アクティビティ期間、ファイル/グループ同期のタイムアウト、およびグループの非アクティビティ期間によるタイムアウトのデフォルト設定を変更するには、[一般]タブの [デフォルト タイミング]を使用します。エージェントは、そのエージェントに属する選択されたサーバ上のすべてのオープンファイルに対してこれらの値を使用します。[ファイル/グループ]タブで、いずれかのファイルにデフォルト以外の値を指定した場合、それらのファイルにはこれらの設定が使用されません。

[一般]タブの [デフォルト タイミング]セクションでは、以下のオプションが指定できます。

書き込み非アクティビティ期間

ここで設定した期間(秒)、非アクティブになっているファイルは、バックアップできるファイルと見なされます。グループの場合、エージェントは同期化の前にグループ内のファイルすべてに [書き込み非アクティビティ期間]を適用します。エージェントは、[ファイル/グループ同期タイムアウト]の値に達するまで、各ファイルまたはグループに対し指定した [書き込み非アクティビティ期間]の秒数が経過するのを待機し続けます。設定ダイアログボックスの [ファイル/グループ] タブで変更しない限り、この値はデフォルト値として使用され、すべてのファイルに適用されます。

デフォルトの書き込み非アクティビティ期間 (NSS ボリュームのみ)

バックアップクライアントがファイルにアクセスするためのNSSスナップショットボリュームを作成しても問題がないかどうかを判断するために、エージェントが待機する期間(秒単位)。エージェントは、NSS同期タイムアウトの値を超過するまで指定された時間内には書き込み処理が行われないようにします。

ファイル/グループ同期タイムアウト

ファイルまたはファイルグループが、[書き込み非アクティビティ期間]で定義された期間非アクティブであるかどうかの判断を、エージェントが試行し続ける期間(秒)です。安全な時間を検出する前にタイムアウトになると、バックアップクライアントからのオープンリクエストは拒否されます。

デフォルトのNSS Sync タイムアウト (NSS ボリュームのみ)

NSSスナップショットボリュームを正常に作成できる時間の検出を停止する前に、エージェントが待機する期間(秒単位)。安全な時間が検出されないままタイムアウトになると、NSSスナップショットボリュームは作成されません。この場合、バックアップクライアントはバックアップに失敗するか、元のボリュームからファイルにアクセスできますが、開いているファイルにはアクセスされません。

グループ非アクティビティタイムアウト

バックアップクライアントでグループ内のすべてのファイルが処理されておらず、現在開かれているファイルがない場合、開いているグループを閉じるためにエージェントが待機する期間です。

タイムアウトが発生すると、このイベントがログに記録され、グループが自動的に閉じてプレビューデータも破棄されます。この値は、クライアントがバックアップを完了するのに通常必要な時間よりも大きい値に設定してください。デフォルト値は、設定ダイアログボックスの [ファイル/グループ] タブで追加される新しいグループすべてに適用されます。

たとえば、あるグループに5つのファイルがあり、[グループ非アクティビティタイムアウト]が2時間に設定されているとします。このとき、バックアップクライアントが4つ目のファイルのバックアップを終了した後、2時間経過しても5つ目のファイルを開くことができない場合には、タイムアウトが発生します。タイムアウトには、以下の例のように、さまざまな原因が考えられます。

- ファイルが異なるボリュームにある場合。
- ドライブからメディアが取り出された場合。
- バックアップが中止された場合。

プレビュー データ ボリューム

「最小空き容量」には、エージェントが機能するために、選択したコンピュータのプレビュー データ ボリューム上で最小限必要な空き領域を指定します。

「一般」タブの「サーバSYS ボリューム」セクションでは、以下のオプションが指定できます。

最小空き領域

エージェントでは、プレビュー ファイル データ(バックアップ中のファイルに対してアプリケーションにより変更が追加されたときに、バックアップ クライアントが変更前後の整合性をとるために記録する変更前のデータ)を作成するために一定の空き領域が必要です。

- ◆ 十分な空き領域がないと、バックアップ クライアントで新しいファイルを開くことができなくなり、実行中のクライアント操作においてはその時点で操作が停止されます。
- ◆ その後、再び十分な空き領域が確保されると、処理が自動的に再開されます。

詳細情報:

[プレビュー データ ボリュームの変更](#)

「ファイル/グループ」タブ

「ファイル/グループ」タブでは、デフォルト以外のタイミング値をファイルおよびグループに対して設定できます。

グループの詳細については、「グループの同期化」を参照してください。

ファイルリストには、デフォルト以外の設定の対象として選択したファイルおよびグループが表示されます。ファイルがデフォルトとは異なる方法で処理されている場合、ファイルの設定が表示されます。ファイルが表示されていない場合、エージェントはファイルをデフォルトの設定を用いて処理します。

このリストでは各ファイルは、単一のファイル名またはディレクトリ名で指定されます。または1つのディレクトリ内の複数のファイルをワイルドカード定義で指定することもできます。項目の表示順序は、処理の適合性をチェックする順序を決定するため重要です。特に、ワイルドカードを使用している場合には注意が必要です。

注：ワイルドカード文字を使用する場合、ボリュームが格納されているファイルシステムでサポートされている文字のみを使用できます。ワイルドカード文字の動作は、ファイルシステムにより決定されます。

グループまたはファイルの設定を変更するには、グループまたはファイルをダブルクリックします。

「新規の非グループファイル」アイコンは、新規ファイルの追加を可能にする特別なエントリです。このアイコンを選択して「新規ファイル」ボタンをクリックすると、グループに属さないファイルを追加できます。Agent for Open Files の設定ウィンドウの「ファイル/グループ」タブでの上記以外の設定（「新規グループ」を除く）は、すべてこのファイルリストで現在選択されているファイルまたはグループに適用されます。

注：ルート ボリュームにあるすべてのファイルを Agent for Open Files 設定に追加する場合は、次の例のようにワイルドカードを使用する必要があります。例：
C:*.*。ボリュームラベルのみの指定はサポートされていません。

詳細情報：

[デフォルト タイミングの設定](#)

新規グループの追加

グループは、たとえばデータベースを使用している場合など、1つのトランザクションが複数のファイルに影響する場合に便利です。

グループ、ファイルまたはディレクトリを追加する方法

- エージェントの設定に新しいグループを追加するには、**新規グループ** ボタンをクリックします。
一意のグループ名を指定する必要があります。
- 既存のグループにファイルまたはディレクトリを追加するには、**ファイル** リストのグループを選択して **新規ファイル** ボタンをクリックします。
- グループに属さないファイルまたはディレクトリを新規追加するには、**ファイル** リストの **新規の非グループファイル** アイコンを選択し、**新規ファイル** ボタンをクリックします。

新規ファイルの追加

新規ファイル/新規ディレクトリ]ダイアログには、以下のフィールドがあります。

ファイルのネームスペース

[ファイルのネームスペース]リストで新規ファイルや新規ディレクトリのネームスペースを定義します。通常、ファイルサーバでは、別々のクライアントオペレーティングシステムに対応する多数の異なるファイルシステムをサポートできます。個々のファイルのネーミングシステムはネームスペースと呼ばれ、ファイルの名前付けやワイルドカード記号などに関する規則がすべて盛り込まれています。

ファイル名

追加するファイルまたはディレクトリのフルパスを指定します。

DOS ネームスペースでは、ワイルドカード(「?」や「*」)を使用して、ディレクトリ内のファイルの一部または全部を含めることもできます。

例: パス

Windows:

C:\ACCOUNTS\2002\DATA.DBS

C:\ACCOUNTS\2002\DATA.*

C:\ACCOUNTS\2002*

Macintosh

SYS:folder1:folder2:filename

Macintosh のネームスペースでファイル名を指定する場合は、コロン(:)をパスのセパレータとして使用し、円記号(\) やスラッシュ(/) を使用しないよう注意してください。

注: Macintosh ネームスペースではワイルドカードは使用できません。

参照

[ファイル/ディレクトリの追加]ダイアログボックスを使用してファイルとディレクトリを検索できます。

詳細情報:

[ファイルとディレクトリの追加](#)

ファイルまたはグループの削除

[削除]をクリックして、[ファイル/グループ]タブで選択したファイルまたはグループを削除します。削除の確認を要求されます。

ファイルとディレクトリの追加

[ファイル/ディレクトリの追加]ダイアログボックスでは、コンピュータのボリュームを参照して、ファイルやディレクトリを追加または削除できます。

[ファイルとディレクトリの追加]ダイアログには、以下のフィールドがあります。

ボリューム

選択したサーバで使用可能なボリュームまたはドライブを表示します。ボリュームまたはドライブの名前を選択すると、[ディレクトリ]リストと[ファイル]リストの表示が更新されます。

ディレクトリ

[ボリューム]リストで現在選択されているボリュームまたはドライブのディレクトリツリーが表示されます。ディレクトリ名をダブルクリックするとサブツリーが展開され、ディレクトリ内のファイルが[ファイル]リストに表示されます。黄色のフォルダアイコンは、追加済みのディレクトリを示します。

ファイル

[ディレクトリ]リストで現在選択されているディレクトリのファイルが表示されます。ファイル名をダブルクリックするか、[追加]ボタンをクリックすると、現在選択しているグループに対して、またはグループに属さない単独の項目としてファイルを追加できます。黄色のファイルアイコンは、追加済みのファイルを示します。

追加

選択した項目を現在のグループに追加するか、またはグループに属さない項目として追加します。1度に複数のファイルまたはディレクトリを追加することも可能です。追加するファイルまたはディレクトリをすべて選択し、[追加]ボタンをクリックします。複数のファイルを選択するには、カーソルをドラッグしてまとめて選択するか、Ctrl キーを押しながらファイル名を1つずつクリックします。

注：フォルダを追加する際、サブディレクトリは自動的に含まれない点に注意してください。

削除

選択した項目を現在のグループから削除するか、またはグループに属さない項目として削除します。以前に追加したファイルを削除するには、名前をダブルクリックするか、[削除]ボタンをクリックします。

同期方法]オプション

[ファイル/グループ]タブから、[同期方法]オプションにアクセスできます。このオプションを使用して、開いているファイルをバックアップクライアントでバックアップする準備が整っていることを検出する方法を指定します。

[同期方法]セクションには、以下のオプションがあります。

書き込み非アクティビティ

ファイルが安全にバックアップできる状態かどうかをチェックするための方式として、「書き込み非アクティビティ」を選択します。[書き込み非アクティビティ期間]で指定した期間を経過しても書き込み処理が行われない場合、エージェントはファイルが安全にバックアップできる状態であると見なします。

上記の期間を経過しても書き込み処理が行われない場合、エージェントは、[ファイル/グループ同期タイムアウト]の値に達するまで、[書き込み非アクティビティ期間]で指定した安全にバックアップできるまでの期間を再度待機します。

詳細については、「[グループの同期化](#)」を参照してください。

注: Windows では、この同期方式のみが使用できます。

無視する(BAOFを使用しない)

エージェントが存在しない場合と同様にファイルまたはグループを処理します。

- ファイル(単一のファイルまたはグループ内のファイル)にこのオプションが設定されていると、エージェントは、バックアップクライアントがバックアップを実行しようとしているときに対象ファイルが開かれていても、同期を実行しません。
- このオプションをグループに対して設定すると、グループ内のファイル同期が試行されますが、グループ定義がない場合と同様に実行されます。つまり、グループに含まれるファイルの1つが同期できない場合でも、残りのファイルはバックアップできます。

たとえば、以下のファイルで構成されているグループを考えてみます。

C:\Arcserve SRM\Database\index1.dat

C:\Arcserve SRM\Database\index2.dat

C:\Arcserve SRM\Database\data.dat

[無視する(BAOFを使用しない)]オプションがこのグループに対して設定されていて、index2.dat が同期できない場合でも、index1.dat と data.dat はバックアップされます(エージェントがこれらのファイルを同期できたと仮定します)。

詳細情報:

[ファイルレベル同期](#)

「タイミング」オプション

「タイミング」オプションを使用すると、個々のファイルまたはグループに対してデフォルト以外のタイムアウト値を設定できます。

注：「タイミング」フィールドの値をデフォルト値にリセットする場合は、その設定をダブルクリックするか、または Ctrl + D キーを押します。

「タイミング」セクションには、以下のオプションがあります。

書き込み非アクティビティ期間

オープンしているファイルが、ここで設定した期間(秒数)非アクティブになっている場合、バックアップできるファイルと見なされます。

- グループの場合、エージェントは同期化の前にグループ内のファイルすべてに「書き込み非アクティビティ期間」を適用します。
- エージェントは、「ファイル/グループ同期タイムアウト」の値に達するまで、各ファイルまたはグループに対し指定した「書き込み非アクティビティ期間」の秒数が経過するのを待機し続けます。

注：「書き込み非アクティビティ期間」は、自動感知方式または書き込み非アクティビティ方式を選択した場合にのみ適用されます。

たとえば、「書き込み非アクティビティ期間」が5秒に設定されている場合、ファイルに書き込みが行われない状態が5秒間続いた時点で、エージェントはクライアントに対しファイルのバックアップを許可します。

ファイル/グループ同期タイムアウト

「書き込み非アクティビティ期間」で定義された期間に基づいて、ファイルまたはファイルグループが非アクティブであるかどうかの判断をエージェントが試行し続ける期間(秒)です。

- この期間が経過すると、エージェントは、バックアップクライアントがファイルまたはグループに安全にアクセスできるタイミングの検出処理を中止します。
- タイムアウトになると、バックアップクライアントからのオープンリクエストは拒否されます。

注：このフィールド名は、設定によって変わります。「ファイル」リストでファイルを選択すると「ファイル同期タイムアウト」になり、グループを選択すると「グループ同期タイムアウト」になります。

たとえば、[ファイル/グループ同期タイムアウト]の値を60秒に設定すると、[書き込み非アクティビティ]で指定した期間が特定のファイルで検出されるまで、エージェントは60秒間待機します。この時間内に [書き込み非アクティビティ期間]が検出されない場合、ファイルまたはグループのリクエストが拒否されます。

グループ非アクティビティタイムアウト

バックアップクライアントが、ここで指定した期間(秒数)ほかのファイルをバックアップできない場合、バックアップ処理が中止されます。この期間が経過すると、グループは閉じられ、そのグループのバックアップは中止されます。タイムアウトはログに記録され、プレビューデータは破棄されます。

この値は、クライアントがバックアップを完了するのに通常必要な時間よりも大きい値に設定してください。デフォルトのタイムアウトは、設定ダイアログボックスの [ファイル/グループ] タブを使用して追加したすべての新規グループに適用されます。ただし、[ファイル/グループ] タブでデフォルト値以外の [グループ非アクティビティタイムアウト] を指定したグループは除きます。

クライアント]タブ

設定ダイアログボックスの [クライアント]タブでは、選択したコンピュータ上のバックアップクライアントの有効化、無効化、および環境設定を行うことができます。

注: Arcserve Client Agent for Arcserve Backup を有効化/無効化する場合は、必ず Arcserve Client Agent for Arcserve Helper サービスも有効化/無効化する必要があります。

リモートサーバの設定の詳細については、「詳細な環境設定」を参照してください。

[クライアント]タブで使用できるオプションは以下のとおりです。

クライアント

エージェントでサポートされているすべてのバックアップクライアントが表示されます。クライアントが有効な場合、緑のチェックマークが隣りに表示されます。

クライアントを無効にする

選択されたバックアップクライアントを無効にします。クライアントが無効の場合、開いているファイルに対するクライアントからのアクセスは拒否されます。

このフィールドは、現在無効に設定されています。この動作はバックアップサーバによって制御されます。

ログイン名

選択されたログインベースのクライアントと関連付けられる名前を指定します。エージェントは、ワークステーションベースのバックアップクライアントとリモートサーバベースのクライアントを特定のログイン名と関連付けて認識します。このフィールドは、現在無効に設定されています。

注: クライアントでログイン名が必要な場合は、そのクライアントに対してこのフィールドを無効にする必要があります。

重要: このログイン名は、クライアントがバックアップを行うための常に予約されている必要があります。同じ名前でも他のファイル処理を実行すると、不要な処理をエージェントが実行する原因になり、正常に機能しなくなる場合があります。ログイン名として推測しやすい「Admin」や「Administrator」などの名前を付けることは避けてください。

ユーザおよびグループ(Windowsのみ)

ログイン名がユーザであるか、またはグループに属するかどうかを決定します。

- [ユーザ]を選択した場合、現在選択されているログインベース

のクライアントは、[ログイン名]フィールドで指定したユーザからファイル処理がリクエストされた場合にのみ認識されます。

- [グループ]を選択した場合、現在選択されているログインベースのクライアントは、[ログイン名]フィールドで指定したグループに属するユーザからファイル処理がリクエストされた場合に認識されます。

統合の有効化

Arcserve Backup イベント システムにログ情報とアラートを送ります。この処理は、Arcserve Backup をバックアップクライアントとして使用しており、クライアントリストでそれ以外の項目の拡張機能を有効にしていない場合(リモートクライアントは除く)にのみ実行できます。ほかのクライアントが選択されているときにこのオプションを選択すると、ほかのクライアントを無効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

注: Arcserve Backup サーバとエージェントの両方が同じコンピュータにインストールされている場合、エージェントはローカルの Arcserve Backup サーバにのみ情報を送信することができます。

詳細な環境設定

以下のセクションでは、詳細な設定の変更方法について説明します。通常は、バックアッププログラムを使用する方法を変更する必要はありません。ただし以下のような場合には、環境設定の変更が必要となる場合があります。

リモート バックアップ プログラムの場合のログオン名の設定

ワークステーションまたはほかのサーバから目的のサーバにログオンするバックアップソフトウェアでは、ログオン名の設定が必要な場合があります。プッシュエージェントなどのリモート エージェントを使用するバックアップアプリケーションは、この中には含まれません。ご使用のバックアップアプリケーションがこの種類でない場合は、対応するクライアント エントリを無効にしておきます。

例：ログオン名の設定

Arcserve Backup を使用してログオン名を設定する方法

1. バックアップ マネージャを開いて [ソース] タブを選択します。
2. ログオン名を設定する対象のサーバを右クリックし、コンテキスト メニューから [セキュリティ] を選択します。
3. ログオン名とパスワードを入力します。
 - ◆ クライアントのワークステーションで設定した名前とログオン名が同一である場合、問題なくログオンできます。
 - ◆ クライアント ワークステーションで設定した名前と異なる場合、ログオン情報を更新します。

詳細情報：

[\[クライアント\] タブ](#)

再試行のメカニズム

何度かオープン リクエストを繰り返すことで、開かれているファイルへのアクセス取得を試みるバックアッププログラムもありますが、その成功率は高くありません。この使用中のファイルのバックアップ方法は部分的にのみ成功します。その点、エージェントは使用中のファイルに無条件にアクセスできるため、このようなメカニズムは必要ありません。したがって、現在使用中のバックアップソフトウェアにこのような再試行メカニズムがある場合、その機能を無効にします。

たとえば、Arcserve Backup を使用する場合、**[グローバルオプション]**ダイアログボックスの**[再試行]**タブにある**[すぐに再試行する]**オプションと**[ジョブの後に再試行する]**オプションは無効にします。

注： エージェントでは、eTrust® のリアルタイム スキャン エンジンに、オープン ファイルへのアクセスを許可していません。これは、ウイルスに感染したファイルが、あたかも感染していないかのように見せかけてそのファイルのバージョンをスキャン エンジンに報告し、ウイルスが自分自身を隠す可能性を防止するためです。

ファイル書き込みのキャッシュ

アプリケーション プログラムの一部には、稼働中のワークステーションでファイル書き込みをキャッシュする機能があります。したがって、そのような機能を持つサーバでは、バックアッププログラムによるファイル表示が最新ではないことがあります。そのため、データの整合性問題が発生する可能性があります。これは、エージェントが原因で発生する問題ではありませんが、エージェントを使用した結果として発生することがあります。というのも、使用中のファイルをバックアップできるようになるためです。

可能であれば、書き込みがキャッシュされないように、アプリケーションを設定するのが最適です。

例：書き込みキャッシュの防止

Microsoft Access の場合、データベースには排他属性が設定されていないことを確認します。

名前変更または削除したファイル

クライアントでバックアップ中のファイルをアプリケーションで名前変更したり削除したりしようとする、エージェントが名前変更リクエストまたは削除リクエストをそのファイルの [ファイル同期タイムアウト] 時間まで遅延させます。タイムアウトになったときに、ファイルのバックアップが完了していない場合には、アプリケーションの要求はサーバのオペレーティングシステムに転送され、「ファイル使用中」エラーで要求が却下されます。

アクティブなエージェントグループに属するファイルも、名前変更したり削除したりすると、ログファイルに警告メッセージが記録されることがあります。

頻繁に名前変更または削除されるファイルは、テキストやスプレッドシートなどの比較的サイズが小さいファイルのため、タイムアウトになる前にバックアップが完了します。

サーバのスキャン

初めてコンソールを起動したときには、ファイルサーバのリストにはローカルマシンのみが表示されます。2回目以降は、前回のスキャンで検出されたすべてのサーバが表示されます。これらのサーバを表示させるには、下位の階層が折りたたまれているネットワーク階層がある場合、これを展開する必要があります。

- ファイルサーバのリストで、展開されていないネットワーク階層 (Microsoft Windows Network、ワークグループ名、ドメイン名など) を展開すると、その階層内ですでに認識されているサーバがすべて表示されます。
- また、階層内に認識されているサーバがない場合は、階層が展開されるとただちにスキャンが行われます。
- エージェントが実行されていない状態を示しているサーバの名前をダブルクリックすると、そのサーバの再スキャンが行われ、必要に応じてステータスが更新されます。

ネットワーク階層で展開されているすべてのコンポーネントに対して強制的に再スキャンを行なうには、[スキャン] ボタンをクリックします。

スキャンの結果、200件を超える数のサーバが検出されると、検出されたサーバの個数が200に達した時点でスキャンが中止され、最近使用したリストには検出されたサーバのみが報告されます。次に、必要なサーバを検索するには [検索] ボタンを使用するよう指示するメッセージが表示されます。

詳細情報:

[コンソール](#)

プレビュー データ ボリュームの変更

プレビュー データが保存されているボリュームが小さすぎる場合など、エージェントにより生成されたプレビュー データを、別のディスク ボリュームに移動する必要があります。Windows 上のデフォルトのプレビュー データ ボリュームは、エージェントがインストールされているボリュームです。

プレビュー データ ボリュームを変更する方法

1. 以下の Windows 用コマンドを入力して、バックアップ セッションが実行中でないことを確認します。

```
NET STOP OPENFILEAGENT
```

エージェントが閉じます。

2. テキスト エディタを使用して、エージェントの環境設定ファイル OFANT.CFG を開きます。

デフォルトでは、以下のディレクトリにエージェントが配置されます。

```
C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Open files
```

3. 「 [General] 」から始まるセクションに新しい行を追加します。このセクションが存在しない場合は、作成できます。

[一般]

```
PreviewDataVolume = x
```

注: x に、目的のボリュームの識別子を指定します。

4. 変更をファイルに保存します。
5. 以下の Windows 用コマンドを使用して、エージェントを再起動します。

```
NET START OPENFILEAGENT
```

プレビュー データ ボリュームが変更されます。

詳細情報:

[プレビュー データ ボリューム](#)

エージェントのステータス

このセクションでは、Agent for Open Files の [ステータス] ダイアログ ボックスを使用して Windows サーバのエージェントを確認する方法について説明します。

Windows サーバでのエージェントのステータスの表示

[Agent for Open files ステータス]ボタンは、サーバ上のオープン ファイルをバックアップするように Agent for Open files を設定している場合にのみ有効です。このボタンは、Microsoft VSS を使用してオープン ファイルをバックアップするように Agent for Open files を設定した場合は無効になります。

Windows サーバ上で Agent for Open files ステータスを表示する方法

1. バックアップ マネージャを開きます。
2. [ソース]タブでコンピュータを選択します。
3. Windows エンジンがインストールされているコンピュータを右クリックし、コンテキストメニューから [Agent for Open Files ステータスの表示]を選択します。

[サーバ(実際の名前) の Agent for Open Files ステータス]ダイアログ ボックスが表示されます。

このオプションは、[バックアップ マネージャ]の [追加情報]ペインからも選択できます。

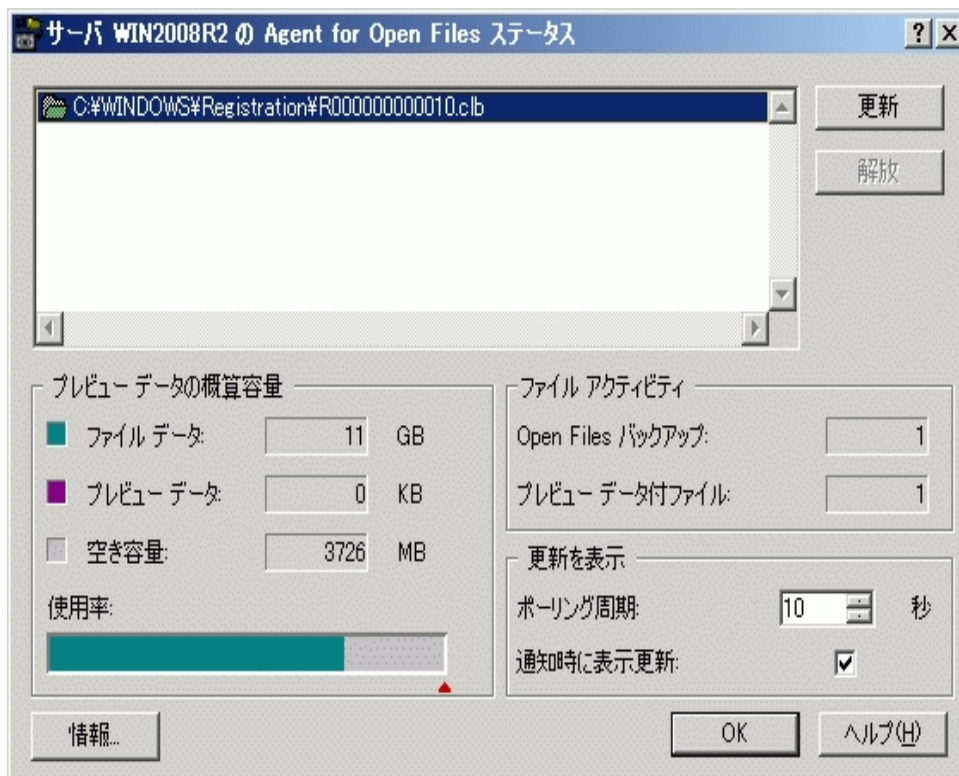
注: このオプションは、Agent for Open files コンソールと Arcserve Backup マネージャが同じコンピュータにインストールされている場合にのみ有効です。

コンソールから [サーバ(実際の名前) の Agent for Open Files ステータス]ダイアログ ボックスにアクセスするには、[ファイル サーバ]リストからサーバを選択し、[状態]をクリックします。


Agent for Open files ステータス ダイアログ ボックス

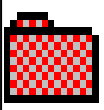
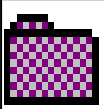

「Agent for Open files ステータス」ダイアログ ボックスには、選択されたコンピュータ上でエージェントが現在処理しているファイルとグループが、以下のように表示されます。

- このリストには、エージェントによって現在開かれているか、または開かれるまで待機状態にあるファイルが表示されます。
- このリストには、現在開いているか、または開かれるまで待機状態にあるファイルが存在するグループが表示されます。



以下の表に、個々のファイル名またはグループ名の横に表示されるアイコンを示します。このアイコンは、ファイルまたはグループのステータスを表します。

File	ステータス
	ファイルは開いており、エージェントが使用しています。
緑色	

 赤色	<p>ファイルはエージェントによって開かれるまで待機状態にあります。タイムアウト値から判断して安全にバックアップできる状態になるまで、ファイルは開かれません。</p>
 紫色	<p>この同期されたファイルは、開いているグループの一部であり、プレビューデータがあります。プレビューデータは、エージェントで保持されています。プレビューデータは、グループを閉じるまで保持されます。</p>
 青色	<p>開かれているファイルまたは待機状態のファイルを少なくとも1つ含むグループ。この場合、このグループ内で処理済みのファイルの合計数(現在開かれているファイルも含む)と未処理のファイルの合計数も表示されます。</p>

注： エージェントが無効になると、[Agent for Open files ステータス]ダイアログボックスにアラートが表示されます。たとえば、サーバのプレビューデータボリュームの空き領域の不足やライセンス違反などが発生すると、エージェントが動作できません。エラー状態が解消されると、アラートは画面から消去されます。

このダイアログボックスで使用できるオプションは以下のとおりです。

更新

[Agent for Open files ステータス]ダイアログボックスの情報が更新されます。

リリース

ファイルの同期リクエストをキャンセルします。または、[Agent for Open files ステータス]ダイアログボックスでエントリを選択した後に、開かれているグループを閉じます。この操作は、バックアップクライアントはすでにファイルまたはグループを処理していない状態であると考えられる場合にのみ行うようにします。

注： [リリース]オプションは、管理者権限がある場合にのみ使用できます。

プレビュー データ ボリュームの容量

[プレビュー データの概算容量]ダイアログ ボックスのフィールドについて以下に説明します。

ファイルデータ

選択したコンピュータのプレビュー データ ボリューム上で使用されているディスク容量が表示されます。ただし、エージェントによって使用される一時ファイルデータは含まれません。[使用率]に緑色で表示されます。

プレビュー データ

選択したサーバのプレビュー データ ボリューム上で、エージェントが現在保持している一時ファイルデータの量が表示されます。ファイルが開かれているときにクライアントがバックアップを行えるようにするため、エージェントはアプリケーションによって変更されるファイルの一時的なコピーを作成します。[使用率]に紫色で表示されます。

空き容量

選択したコンピュータのプレビュー データ ボリューム上での空き領域が表示されます。[使用率]に灰色で表示されます。

使用率

選択したコンピュータの現在の容量使用率がグラフィック表示されます。赤い三角は、[最小空きディスク容量]の現在の設定値を表します。空き領域がこれを下回ると、エージェントは処理を中断します。このしきい値は、Agent for Open Files 設定ウインドウの [一般] タブで設定します。サーバのプレビュー データ ボリュームのうち、[ファイルデータ]は緑色、[プレビュー データ]は紫色、[空き領域]は灰色で示されます。

ファイル アクティビティ

「Agent for Open files ステータス」ダイアログ ボックスの 「ファイル アクティビティ」には、エージェントによって使用されているファイルに関する情報がリアルタイムに表示されます。

「ファイル アクティビティ」には、以下のフィールドがあります。

Open Files バックアップ

エージェントが現在バックアップしているオープン ファイルの数を表示します。

プレビュー データ付ファイル

エージェントの制御下にあり、現在アプリケーションが使用しているファイルの数が表示されます。ファイルによっては、エージェントが保持する一時的なプレビュー データが存在する場合があります。

更新を表示

[Agent for Open files ステータス]ダイアログ ボックスの [更新を表示]セクションを使用すると、エージェントの通知オプションを設定できます。

ここでは、以下のフィールドを使用できます。

ポーリング周期

ステータス表示が更新される周期(秒単位)を表します。この設定は、次回コンソールが実行されるまで有効です。

通知時に表示更新

エージェントのステータスが変更されるたびに表示を更新します。[ポーリング周期]の設定とは無関係です。

ログファイルビューアへのアクセス

バックアップ マネージャから、Agent for Open files ログ ファイルビューアにアクセスすることができます。

Agent for Open files ログ ファイルビューアにアクセスする方法

1. [ソース]タブの左 ペインのブラウザからコンピュータを選択します。
2. Windows エンジンがインストールされているコンピュータを右クリックし、コンテキストメニューから [Agent for Open Files ログ ファイルの表示]を選択します。

選択されたコンピュータ上のエージェント ログ ファイルが表示されます。

このオプションは、[バックアップ マネージャ]の [追加情報]ペインからも選択できます。このオプションは、Agent for Open files コンソールと Arcserve Backup マネージャが同じコンピュータにインストールされている場合にのみ有効です。

コンソールから [サーバ(実際の名前) の Agent for Open Files ログ ファイルビューア]にアクセスするには、[ファイルサーバ]リストからサーバを選択し、[ログの表示]をクリックします。

注： [ログの表示]ボタンは、オープン ファイルをバックアップするよう Agent for Open files を設定した場合にのみ有効になります。

ログファイルビューア

Agent for Open files ログファイルビューアでは、ログファイルの情報が表示されます。デフォルトでは、最新のログファイルが選択されます。[ログファイル]フィールドには、現在表示されているログファイルの完全パスが表示されます。

各ログファイルには、日付と時間が表示されます。画面内は自由にスクロールでき、リストから複数ファイルを選択してクリップボードやテキスト エディタにコピーすることもできます。

注：データは yyyy/mm/dd のフォーマットで表示されます。

ログ内の各項目は、1つのファイルまたはファイルグループに対してエージェントが行った処理内容を表します。

Windows サーバ上で現在アクティブなログファイルを表示している場合、ログファイルの終わりまでスクロールすると、エージェントのイベントをリアルタイムに確認できます。サーバにより新しい項目が生成されると、自動的に画面に表示されます。

注：同じ Windows サーバ上に Agent for Open files と Arcserve Backup がインストールされている場合、Arcserve Backup アクティビティ ログにリアルタイム エージェント イベントが書き込まれます。

第4章: 推奨事項

この章では、エージェントと Microsoft のボリューム シャドウコピー サービス (VSS) を使用して、開かれているファイルを最も効果的にバックアップする方法について説明します。VSS の機能と Agent for Open Files を比較して、さまざまなバックアップジョブでのそれらの推奨される使用法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

エージェントと VSS	66
Agent for Open Files を使用して開かれているファイル进行处理する場合	67
大容量のボリュームにある少量のデータのバックアップ	68

エージェントとVSS

開かれているファイルがあると、データのバックアップ時に重大な問題が発生することがあります。Arcserve Backup では、開かれているファイルを処理するためのソリューションを2つ提供しています。

- Agent for Open files
- VSS に対するサポート

VSSはArcserve BackupおよびVSS対応アプリケーションと共に機能し、コンピュータ上のボリュームのシャドウコピーを作成します。「シャドウコピー」とは、ボリューム上のファイルシステムがコピーを取られたときに作成されるフリーズ(凍結)されたイメージです。コピー元のボリュームとは別のボリューム上にあります。作成されたシャドウコピーは、バックアップのソースとなります。

Agent for Open Files を使用して開かれているファイル进行处理する場合

以下のシナリオでは、Agent for Open Files によるファイルのバックアップが最適です。

- 大容量のボリュームにある少量のデータをバックアップする
- 使用率の高いボリュームにあるファイルをバックアップする
- ライタ(VSS 対応アプリケーションの1つ)でサポートされていないファイルをバックアップする

詳細情報:

[エージェントの紹介](#)

大容量のボリュームにある少量のデータのバックアップ

エージェントは、ファイルごとに処理を実行します。つまり、開かれているファイルが検出されるたびに、それぞれが処理されます。対照的に、VSS ではボリュームごとに処理されます。つまり、VSS の場合、バックアップの開始前にバックアップのボリューム全体を準備する必要があります。このことを念頭に置いて、120 GB のハードディスクにある10 GBの重要なデータベースファイルをバックアップする場合を考えてみます。

- VSS を使用すると、120 GB のボリューム全体のスナップショットを用意し、そのボリュームにあるデータを持つ各ライタはファイル(開かれているファイルと閉じられているファイルの両方)を用意してからバックアップジョブを開始する必要があります。
- エージェントを使用すると、バックアップのリクエスト時にバックアップ対象のファイルが閉じられていれば、バックアップが即座に開始されます。オープンファイルがある場合は、エージェントがそれらを同期化してArcserve Backupによるバックアップを可能にします。

そのため、少量のデータ(そのデータがあるボリュームの容量に比べてサイズが小さなデータ)をバックアップする場合は、エージェントを使用した方が開かれているファイルをより高速にバックアップできます。

ライタでサポートされていないファイルのバックアップ

エージェントは、ほかのアプリケーションから独立して処理を実行します。Arcserve Backup エージェントは、アプリケーションを妨害せずに、開いているファイルをバックアップします。アプリケーションはバックアップジョブの実行中でもそのファイルに書き込むことができ、エージェントと通信する必要もありません。

- VSS では、開かれたファイルをバックアップする場合、*Writers* という VSS 対応のアプリケーションを使用し、バックアップ対象の関連ファイルを準備します。たとえば、Microsoft Exchange ファイルの準備は、Microsoft Exchange Writer で対応します。
- 特定のアプリケーションで使用できるライタがない場合、そのアプリケーション形式のオープンファイルのバックアップは正確性に欠けるものになります。

ライタに関連付けられていないファイルも含め、開かれているすべてのファイルを確実にバックアップできるようにする唯一の方法は、エージェントを使用することです。ライタに関連付けられていない開かれているファイルを、VSS を使用してバックアップすると、トランザクションの整合性が保証されず、バックアップ全体が無効になる危険性もあります。

VSS を使用して、開かれているファイル进行处理する場合

バックアップするファイルがライターに関連付けられている場合は、VSS テクノロジの使用が最適です。ライターでは、アプリケーションおよびそのファイルとの理想的な通信が可能であるため、VSS はライターのファイルのトランザクションがどのように動作するかという点で詳細な情報を取得できます。ファイルの稼働率がきわめて高い場合、VSS に比べると、Agent for Open Files では開かれているファイルを安全にバックアップできる期間を検出するのに時間がかかります。

Microsoft Windows Vista およびその他の新しいオペレーティングシステムでは、VSS サポートが機能拡張されています。オープン ファイルをバックアップするときには Microsoft Windows Vista および Microsoft Windows Server 2008 で VSS を使用することを推奨します。

VSS の操作の詳細については、「*Arcserve Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service ユーザガイド*」を参照してください。

第5章: トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>一般的な問題</u>	72
---------------------	----

一般的な問題

このセクションでは、発生する可能性がある一般的な問題について説明します。

エージェントの圧縮ドライブへのインストール

エージェントを圧縮ドライブにインストールできない

現象

圧縮したドライブ、パーティション、またはディレクトリにエージェントをインストールすると、データが破損する可能性があります。

解決策

圧縮したストレージを使用する必要がある場合は、圧縮されていない場所にプレビューデータボリュームを格納して、データの破損を防いでください。

詳細情報:

[プレビューデータボリュームの変更](#)

コンソールからエージェントにアクセスできない

コンソールからエージェントにアクセスできない

現象

ワークステーション上の Agent for Open files コンソールから、サーバ上の Windows エンジンにアクセスできません。

解決策

この問題が発生した場合は、以下の操作を行います。

- ◆ Windows エンジンがサーバに適切にインストールされ、実行されていることを確認します。
- ◆ ワークステーションで Windows のエクスプローラからサーバを表示できることを確認してください。表示されない場合は、ネットワークハードウェアまたはソフトウェアの設定に問題がある可能性があります。
- ◆ サーバが Windows エクスプローラには表示されるが、コンソールの [ファイルサーバ] リストに表示されない場合は、ネットワークを正しくスキャンしていることを確認してください。また、サーバに対して Guest アクセス権があるかどうかも確認してください。

サーバが [ファイルサーバ] リストに表示されるのに、サーバ上でエージェントを設定できない場合は、十分な権限でサーバにログインしていない可能性があります。

詳細情報:

[サーバのスキャン](#)

コンソールの使用中にサーバのエージェントにアクセスできない

ワークステーションでコンソールを使用している場合にサーバ上のエージェントにアクセスできない

現象

以下のいずれか、またはすべてが発生します。

- ファイルがログに一覧表示されない。
- ログに「次のファイル/グループは同期化できません: ファイル名」と記録される

解決策

コンソールを使用してエージェントのログファイルを確認し、スキップされたファイルが保存されているサーバを特定してください。Arcserve Backup がオープンファイルにアクセスするたびに、エントリがログに作成されます。

- ◆ ログにファイルがリストされていない場合は、エージェントでクライアントが認識されていません
- ◆ ログに「ファイル、ファイルグループの同期に失敗」と表示される場合は、ファイルまたはグループが整合性のとれた状態でバックアップできるタイミングが見つかりません。[ファイル同期タイムアウト]の値を増やすか、[書き込み非アクティビティ期間]の値を減らしてください。トランザクションの整合性を確保するために十分な時間が設定されていることを確認してください。
- ◆ ファイルがグループに属していない場合は、[Agent for Open Files 設定]ダイアログボックスの[一般]タブの値を変更するのではなく、[ファイル/グループ]タブにファイルのエントリを作成することができます。

詳細情報:

[\[クライアント\]タブ](#)

ネットワークのスキャンに時間がかかりすぎる

ネットワークのスキャンに時間がかかりすぎる

現象

エージェントが Microsoft ネットワークをスキャンするのに非常に時間がかかります。

解決策

コピーしているファイルが、ワークステーション上のキャッシュメモリの特定の領域に保持されている可能性があります。

注: この場合のキャッシュとは、ネットワーククライアントソフトウェアで使用されるキャッシュメモリのことで、SMARTDRIVE などによるローカルディスクキャッシングのことではありません。このような場合、サーバ上のエージェントは、いつユーザがワークステーション上のファイルにアクセスしたのかを認識できず、いつグループを閉じるのかを通知できません。

この問題は、ファイルへのアクセスを 1 回のみ制限することによって回避できます。これにより、ワークステーションがサーバからファイルデータを取得できるようになり、エージェントを正しく機能させることができます。ただし、もう 1 度ファイルにアクセスした場合には、キャッシュメモリからデータが取り出される可能性があります。

詳細情報:

[サーバのスキャン](#)

ファイル名を表示するための権限がない

「ファイル名を表示するための権限がありません」というメッセージが表示される現象

ファイル名が表示されません。

解決策

Agent for Open Files ステータス ダイアログ ボックスでファイル名を表示するには、管理者、バックアップオペレータ、サーバオペレータ、スーパーバイザ、またはコンソールオペレータの権限でサーバにログインします。システムセキュリティは、これらのアクセスレベルの1つに対して割り当てられているファイル名のみを識別します。

注：管理者、バックアップオペレータ、サーバオペレータ、スーパーバイザ、またはコンソールオペレータの権限でサーバにログインしていなくても、グループ名や進行状況などの同期化ステータスとグループ情報は表示できます。

詳細情報：

[詳細な環境設定](#)

Arcserve Backup とリモート システムの接続が切断される

Arcserve Backup とリモート システムの接続が切断される

現象

バックアップジョブの実行中に Arcserve Backup のリモート システム接続が切断されます。

解決策

リモート システム上のバックアップ中のファイルで同期に時間がかかると(たとえば、アプリケーションによって継続して書き込みが行なわれている場合など)、ホスト システム(Arcserve Backupを実行しているシステム) がタイムアウトして、接続が切断されることがあります。

以下の2つの解決策が考えられます。

- [ファイル同期タイムアウト]時間を 40 秒に短縮し、ファイルが同期化される可能性を高くします。
- 上記ができない場合は、ホスト システムのセッションタイムアウトを延長します。以下の手順に従います。
 - Windows の [スタート]メニューから [ファイル名を指定して実行]をクリックします。「REGEDIT」と入力して [OK]をクリックします。
レジストリエディタが開きます。
 - 以下のレジストリキーを見つけます。
HKEY_LOCAL_MACHINE/System/CurrentControlSet/Services/
LanmanWorkstation/Parameters
 - [SessTimeout]の値を [ファイル同期タイムアウト]の値よりも大きくします。

たとえば、[ファイル同期タイムアウト]が60秒に設定されていたら、[SessTimeout]を 70 秒に設定します。[SessTimeout]が存在しない場合は、これを新しい [REG_DWORD]値として作成します。

重要: Windows レジストリの編集は慎重に行ってください。レジストリ設定を誤って変更すると、システムが不安定になる可能性があります。サポートが必要な場合は、Arcserve サポート (<https://www.arcserve.com/support>) にお問い合わせください。

バックアップ ジョブ中に多数のファイルを開いていると Windows コンピュータが応答を停止する

バックアップ ジョブ中に多数のファイルを開いていると Windows コンピュータが応答を停止する

現象

Arcserve Backup ジョブ中に多数のファイルが開いていると、Windows コンピュータが応答を停止します。

解決策

Windows コンピュータで頻繁に書き込みが行なわれるファイルが多数開いているときに、バックアップ ジョブがリクエストされると、ファイルのプレビュー データを保存するためのディスク容量が大量に必要になります。デフォルトでは、プレビュー データは C:\ ドライブに保存されます。このため、ディスク容量の使用率が高くなりすぎると、システムが応答を停止することがあります。

この問題を解決するには、プレビュー データを別のドライブに保存するようにエージェントを再設定してください。プレビュー データを保存するドライブを変更する方法については、「エージェントの使用法」の章の「[プレビュー データ ボリュームの変更](#)」を参照してください。

バックアップがしばらく停止しているように見える

バックアップがしばらく停止しているように見える

現象

Arcserve Backup が開かれているファイルをコピーしようとする、エージェントはファイルがバックアップに適した状態になるまでこのリクエストを保留します。書き込み非アクティビティ期間により、これには数秒かかります。ファイルまたはグループが同期化されるか、[ファイル/グループ同期タイムアウト]に設定した時間が過ぎると、バックアップは自動的に続行されます。

解決策

なし

バックアップ終了後にファイルグループが開かれたままになる

バックアップ終了後にファイルグループが開かれたままになる

現象

増分または差分バックアップを実行している場合、変更されていないファイルはバックアップ対象から除外されます。除外されたファイルがグループに含まれる場合、グループは閉じられません。これは、Arcserve Backupからすべてのファイルにアクセスしなかったためです。このことによる実害はなく、[グループ非アクティビティタイムアウト]に設定した時間が過ぎると、グループは自動的に閉じられます。

解決策

グループを強制的に閉じる場合は、[Agent for Open files ステータス]ダイアログボックスの [リリース] をクリックします。

エージェントで Macintosh ネームスペースのファイル名が認識されない

エージェントで Macintosh ネームスペースのファイル名が認識されない

現象

ほかのネームスペースで使用される円記号 (\) やスラッシュ (/) が、Macintosh では有効ではありません。

解決策

Macintosh のネームスペースを使用する場合は、コロン (:) をパスのセパレータとして使用する必要があります。

有効な Macintosh ネームスペースは、以下ようになります。

`SYS:folder1:folder2:filename`

注： Macintosh ネームスペースではワイルドカードは使用できません。

バックアッププログラムに属するファイルを同期化できない

バックアッププログラムに属するファイルを同期化できない

現象

使用しているバックアッププログラムに、バックアップやメディアなどの情報を含む独自のデータベースとログファイルが保存されている可能性があります。バックアッププログラムがこれらのファイルを頻繁に使用すると、この動作だけでもバックアップ中のファイル同期化を妨げる原因になり得ます。

解決策

この問題を解決するには、これらのファイルをすべて含むグループを定義し、これらのファイルを見捨てるようにエージェントを設定してください(これらのファイルは、通常、1つまたは2つのディレクトリを占めるだけです)。[環境設定]ダイアログボックスの [ファイル/グループ] タブで、このグループ内のそれぞれのファイルに対して、[見捨てる(Arcserve Backup Agent for Open Files を使用しない)] オプションをオンにしてください。

重要: グループレベルで [見捨てる(BAOF を使用しない)] を選択しないでください。グループレベルでこのオプションを設定しても、エージェントによるグループ内のファイルのバックアップが停止することはない、ファイルがグループの一部でないかのようにエージェントが機能するだけです。

Agent for Open Files ステータス ダイアログ ボックスの表示が崩れる

「Agent for Open files ステータス」ダイアログ ボックスの表示が崩れる

現象

エージェントがサーバディスプレイで使用している技術の一部は RCONSOLE では再現できず、これが原因で、リモート ディスプレイが点滅したり、誤った表示になったりすることがあります。動作には影響がなく、RCONSOLE の使用に問題はありません。

解決策

RCONSOLE を頻繁に使用する場合は、グラフィック表示を無効にして、従来のテキスト フォーマットを使用することができます。これを行なうには、エージェントをロードするときに以下のように `-v` スイッチを使用します。

```
LOAD OFA -v
```

ワークステーションをバックアップクライアントとして使用してファイルをコピーすると、グループが閉じない場合がある

ワークステーションをバックアップクライアントとして使用してファイルをコピーすると、グループが閉じない場合がある

現象

コピーしているファイルが、ワークステーション上のキャッシュメモリの特定の領域に保持されている可能性があります。このような場合、サーバ上のエージェントは、いつユーザがワークステーション上のファイルにアクセスしたのかを認識できず、いつグループを閉じるのかを通知できません。

注：これは、ネットワーククライアントソフトウェアによって使用されるキャッシュであり、ローカルディスクのキャッシング(たとえば、SMARTDRIVEで行なわれるようなキャッシング)とは関係がありません。

解決策

この問題が発生するのを防ぐために、ファイルにアクセスするのは1度だけにしてください。これにより、ワークステーションがサーバからファイルデータを取得できるようになり、エージェントを正しく機能させることができます。ファイルに2度目にアクセスする場合は、データがキャッシュから取得される可能性が高くなります。

エージェントがグループを同期化するとき、書き込み非アクティビティ期間が完了するまで待機しない

エージェントがグループを同期化するとき、書き込み非アクティビティ期間が完了するまで待機しない

現象

Windows では、エージェントはファイルが最後に変更された日時を正確に認識できます。グループを同期化するとき、グループ内のファイルが書き込み非アクティビティ期間以上変更されていない場合、エージェントはすぐにグループを同期化します。

解決策

なし。

仮想マシン上でオープンファイルをバックアップするときにバックアップジョブがライセンスエラーで失敗する

仮想マシン上でオープンファイルをバックアップするときにバックアップジョブがライセンスエラーで失敗する

現象

仮想マシン上でオープンファイルをバックアップするときにバックアップジョブがライセンスエラーで失敗する

解決策

仮想マシンに以下がインストールされていることを確認します。

- Windows 上の Agent for Open Files の有効なライセンス、または Windows 上の Agent for Open Files for Virtual Machines の有効なライセンス
- VMware ツール

これらがインストールされていない場合は、インストールしてからバックアップジョブを再サブミットします。

Agent for Open Files のメニュー項目を表示できない

Windows XP、Windows Vista、および Windows Server 7 で有効

現象

以下のいずれか、またはすべてが発生します。

- バックアップ マネージャの [ソース] タブに Agent for Open Files 用のメニュー項目が表示されない。
- [検索] ボタンを使用してコンソールからサーバを追加する場合、操作が失敗し、「指定されたファイルサーバが見つかりません。」というメッセージが表示される。

解決策

Windows ファイアウォールをオンにしているかを確認します。オンになっている場合は、Windows ファイアウォールの例外リストに Netlogon Service を追加します。

バックアップ マネージャからエージェントにログインできない

Windows XP、Windows 7、および Windows 8 プラットフォームで該当

現象

バックアップ マネージャからノードを表示しようとする、以下の項目 (プロパティ) を表示できません。

- Agent for Open Files の設定
- Agent for Open Files ステータスの表示
- Agent for Open Files ログ ファイルの表示

解決策

この動作が発生するのは、ノードにログインするために使用されたユーザ アカウントが、ノードへのリモート接続を確立するのに必要な認証情報を所有していないためです。この動作を修正するには、`\\Node\C$` などの管理共有へのアクセスを試行し、次に、リモートの場所から共有にアクセスできない原因となっている、セキュリティ ポリシーとユーザ認証情報に関する問題を修正します。セキュリティ ポリシーとユーザ認証情報に関する問題が修正されると、ノードに正常にログインして、「症状」にリスト表示された項目を表示することができます。

第6章: 用語集

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

書き込み非アクティビティ期間	92
プレビューデータ	93

書き込み非アクティビティ期間

書き込み非アクティビティ期間は、アプリケーションがオープンファイルに書き込んでいない期間です。

プレビューデータ

プレビューデータは、オープンファイルのコピーで、書き込み非アクティビティ期間中に作成され、バックアップ対象のバックアップエージェントに送信されます。

第7章: Index

[

- [インストール]ボタン 28
- [クライアント]タブ 46
- [デフォルト タイミング]の値 44
- [ファイル/グループ]タブ ボタン
参照 39
- [ファイル/ディレクトリの追加]ダイアログ ボックス 41
- [ポーリング周期]フィールド 61
- [ログ]ボタン 28
- [検索]ボタン 28
- [更新]ボタン 57
- [参照]ボタン 39
- [状態]ボタン 28
- [設定]ボタン 28
- [通知時に表示更新]フィールド 61

M

- Macintoshのネームスペース 39

O

- Open Files バックアップ 60

V

- VSS 65-66, 69

W

Windows エンジン 17

あ

アンインストール

エージェント 23

え

エージェント ステータス

Windows サーバ 56

エージェントのインストール

必須権限 20

エージェントのログファイル 62

エージェントの設定 31

お

オープン ファイル

競合の解決 50

表示 62

オプション

タイミング 44

オプションのアンインストール 23

オプションのインストール

手順 21

前提条件 20

き

キャッシュ 51

無効 51



[クライアント、「バックアップ クライアント」を参照 46](#)

[グループ](#)

- [ファイルとディレクトリの削除 41](#)
- [ファイルまたはディレクトリの追加 41](#)
- [リスト 37](#)
- [設定 26](#)
- [追加 38](#)
- [同期化 14](#)

[グループ ユーザ 46](#)

[グループ同期タイムアウト 44](#)

[グループ非アクティビティタイムアウト 44](#)



[コンソール](#)

- [ファイルの設定 26](#)
- [ログファイルビューア 62](#)
- [一般設定 31](#)
- [概要 16, 28](#)
- [構成 26](#)

[コンソール ボタン](#)

- [\[スキャン\]ボタン 28](#)
- [インストール 28](#)
- [ステータス 28](#)
- [ログイン 28](#)
- [ログの表示 28](#)
- [検索 28](#)
- [設定 28](#)

[コンポーネント 15](#)



[サーバ](#)

- [検索 53](#)
- [参照できない 72](#)

サーバベースのバックアップ 46

す

スキップされたファイル 72

スキャン

サーバ 53

非常に遅い 76

ステータス ダイアログ ボックス

Windows 57

アイコン 57

ファイルアクティビティ 60

プレビュー データ ボリュームの容量 59

更新を表示 61

ステータス ダイアログ ボックス ボタン

リリース 57

更新 57

ステータスの更新 57

せ

セッション タイムアウト 76

た

タイミングのオプション 44

て

ディレクトリリスト 41

ね

ネームスペース(Macintosh) 39

ネットワークのキャッシュ 51

は

バックアップ クライアント

- クライアント リスト 46
- ログイン名 46
- 有効化および無効化 46

ふ

ファイル

- オープンファイルの表示 62
- オープンかつバックアップ対象 60
- ネームスペース 39
- プレビュー データ付き 60
- リスト 37, 41
- 新規の非グループ 37
- 追加 37
- 同期 44, 76

ファイル アクセス制御 11

ファイル アクティビティ

- [Open Files バックアップ]フィールド 60
- [プレビュー データ付ファイル]フィールド 60
- フィールド 60

ファイル データ 59

ファイルとグループ

- 削除 40
- 設定 26
- 追加 38-39

ファイルとディレクトリ

- 追加 41

ファイル書き込みのキャッシュ 51

ファイル書き込みのキャッシュの無効化 51

ファイル同期タイムアウト 44

プレビュー データ 59

- ボリュームの変更 54
- 最小空き容量 36
- 同期中 13

プレビュー データ ボリュームの容量 59

- NSS ボリューム 59

ファイルデータ 59
プレビューデータ 59
空き容量 59
使用率 59

[プレビューデータ付ファイル](#) 60

ほ

[ポーリング周期](#) 61

ボタン

インストール 28
スキャン 28
ステータス 28
ログの表示 28
検索 28
参照 39
設定 28

[ボリュームシャドウコピーサービス](#) 65

[ボリュームリスト](#) 41

ゆ

ユーザ

グループ 46
権限 72

ら

[ライターアプリケーション](#) 67, 69

り

リモート

サーババックアップ 26
システムの接続の切断 76

[リモートシステムへの接続の切断](#) 76

リモート バックアップ

ログイン名 構成 49

ろ

ログファイル

アクセス 62

エージェント 62

ビューア 63

最大サイズ 33

表示 63

ログイン名 46

ログオン名の設定

リモート バックアップ 49

わ

ワークステーション

キャッシュ 51

ベースのバックアップ 46, 49

倍

開かれているファイルの表示 62

抗

拡張機能を有効にする 46

瑜

環境設定

エージェント 31

ログファイル 62

一般 31

姦

基本的な考慮事項 26

稚

空き容量 59

喃

更新を表示 61

フィールド 61

ポーリング周期 61

通知時に更新 61

儼

再スキャン 53

髡

最小空き領域 36

凧

削除

グループのファイルとディレクトリ 41

伟

使用率 59

陽

書き込み非アクティビティ期間 13, 44

啟

新規グループ 38

捅

接続の切断、リモート システム 76

覘

設定

ファイルとグループ 26

辭

追加

グループに対するファイルまたはディレクトリ 41

辱

同期化

グループ 14

枸

複数のサーバ 26

厭

名前変更または削除したファイル 79